



スマート・エイジング・スクエア事業の開始

～産学連携による共同研究でサーキットトレーニングが
スマート・エイジングに与える影響を実証する～

スマート・エイジング国際共同研究センター（以降、本センターと称する）は、国立大学で唯一「加齢医学」を標榜する加齢医学研究所の附属施設として、エイジングによる経年変化に賢く対処し、個人・社会が知的に成熟すること、いわゆるスマート・エイジングに係る国際的な共同研究推進体制を構築するため、平成 21 年 10 月 1 日に設置されました。

この度、本センターでは、産学連携研究を通して、高齢者の心身の健康を維持・向上し、生活の質を向上することを可能とする具体的な個人の健康長寿システムを創生し、それを社会に提案することを目的とした「スマート・エイジング・スクエア」事業を開始することになりました。第一弾として、サーキットトレーニングが認知機能に与える実証研究を産学連携による共同研究として(株)カーブスジャパンと行うことになりました。

国立大学において地域住民に日々の生活で心身の健康を維持・向上する機会を提供しつつ、地域住民と直結した研究開発環境を構築する仕組みはこれまでにない初めての試みとなります。

スマート・エイジング・スクエアは、産学連携研究を通して、高齢者の心身の健康を維持・向上し、生活の質を向上することを可能とする具体的な個人の健康長寿システムを創生し、それを社会に提案することを目的としています。研究開発部門の基礎研究成果を、企画開発部門のリエゾン活動により産業界とのマッチングを行い、産学連携による共同研究を発足させて、個人のスマート・エイジングに与える効果の実証研究を行います。実証研究は、本スクエア内に設置した産学連携スペースに地域住民が直接参加する形を取ります。これにより、地域住民に日々の生活で心身の健康を維持・向上する機会を提供しつつ、地域住民と直結した研究開発環境を構築します。本スクエアでは、地域住民、民間企業、大学が一体となり、研究開発から商品化まで一貫して取り組める超高齢社会の新たな産学連携のスタイルの確立を目指しています。

個人の生活の質を高齢期に入っても維持・向上させるためには、「認知的な刺激」、「運動」、「栄養」、「社会との関わり」の四つの要素が重要になります。本スクエアでは、実証研究活動に協力していただく地域住民に「社会との関わり」の機会を提供するだけでなく、産学連携研究による研究開発の主眼を「認知的な刺激」、「運動」、「栄養」のいずれかに絞り込むことで、合目的かつ効率的な実証研究を推進します。

<用語解説>

スマート・エイジング

本センターが提唱する「スマート・エイジング」は、少子化・超高齢社会における新しい概念です。いわゆる「アンチエイジング」のように、高齢期を認めたくない・遭遇したくないという意味が込められたネガティブな概念とは全く異なります。我々の提案は、高齢期を「知的に成熟する人生の発展期」として積極的に受容しようというもので、高齢社会に対する考え方のパラダイムシフトであると考えています。本センターが今後発信する研究成果は、加齢と共に人生が豊かになっていくことを実感し（高齢者の活力）、その結果、老若男女を問わず世代を超えて誰もが知的好奇心によって繋がり、お互いを支えあう「知縁社会」の実現を実現（世代間の知恵の共有）に繋がると確信しています。

「株式会社カーブスジャパン」について

女性だけの30分フィットネス「カーブス」のフランチャイズ本部として2005年設立。

カーブス女性のための、女性によるフィットネスを全国47都道府県へ展開。2005年7月に日本1号店がオープンし、2011年6月には国内1000店舗を超える予定。会員数は全国約36万人。住宅街や商店街など生活に密着したエリアに小型（標準40坪）のクラブを出店。

クラブ内で提供しているカーブスのワークアウトプログラム「30分サーキットトレーニング」は独立行政法人国立健康・栄養研究所との共同研究により、健康的なダイエット、生活習慣病予防、介護予防対策に効果的なことが実証されている。

カーブスジャパンの使命

「私達は、正しい運動習慣を広めることを通じて、お客様と私達自身の豊かな人生と、社会の問題の解決を実現します。」

<本件問い合わせ先>

野内 治香（のうち はるか）

東北大学加齢医学研究所 応用脳科学研究分野

〒980-8575 仙台市青葉区星陵町4-1

TEL: 022-717-8585

E-mail: sairc@idac.tohoku.ac.jp